

令和3年度事業報告

学校法人 田中千代学園

【 中期的方向性と服飾専門課程の今後 】

- 服飾系学校が数校募集停止し、服飾系最大手の学校も赤字幅が拡大したそうです=服飾系志望学生の全国的、継続的縮小（ピーク時の3%）に加え、コロナ下でファッション産業の脆弱性が吐露され、服飾産業国内生産量もついに2~3%（何故か志望動性とリンクしています）となり、受け入れる企業側も厳しさを増し、就職活動も苦しいものとなっています。
- 課程生徒総数が40名を切るのが1つの目安と書きましたが、現在31名です。
- 服飾専門課程入学者が15人を切れば同専門課程存続は難しいとしましたが18名の結果で、こちらの条件は満たしませんでした。
- 想定を上回る退学者増により、年度始め2年生13名となり課程総数40名を切り、年度推計数字として服飾専門課程赤字幅拡大となります。
- 退学原因としては、服飾系自体の魅力と言うか吸引力低下が最大の原因で、専門学校生家庭の困窮、次に服飾を選ぶ意志の希薄さ、服飾系の給与水準の低さ、卒業・就職に対する執着の無さがあり、この傾向は今後さらに強くなるでしょう。ただ学校方針として対策が考えられていますので推移を見たいと思います。
- 退学者の数字は想定外でしたが、事業計画段階では服飾専門課程在籍数40名と課程入学者数15名切りが条件でしたので、そのまま来年3月の判断と考えます。
- 以上を総合的に判断し、他校服飾専門課程募集停止の有無、今年度AO入試応募趨勢、退学動向など勘案し、東京都専門学校審議委員会への準備も視野に置きます。

【 文化専門課程コースの再検証 】

- 当校文化専門課程留学生は継続的増だが、隣接する専門学校ヒコみずのジュエリーカレッジは9年前、日韓関係悪化に伴い留学生激減があり、そのような事態も想定したい。
- 当校は5年前、服飾専門課程生徒総数が40名を切った際、文化専門課程導入を図りましたが、隣接同校は対策として高級時計修理、高級自転車製作、高級和食分野に乗り出しそれなりの成果を出している模様で、当校もその先の模索が必要です。
- 当学園生徒数に関しては、4日制彫刻は5年連続、日本画は2年連続・版画分野も初めて生徒数増に。絵画分野は横這い傾向で、美大受験各科倍率趨勢を加味した場合、今後も絵画系増員は難しいと思われ、今後の広報活動の参考に。
- 2日制絵画コースも減員傾向は変わらない為、絵画コースは採算性含め中止し、新しい形で専科を立ち上げた結果、4日制へ移籍された方も複数に上り想定通りの結果となりました。
- 文化専門課程は日本の美術大学を目指す留学生増の結果、入学者継続増となり、

- マーケティングの基本＝増やせる時に増やせるだけ増やしていきたいと思います。
- 只、留学生増、彫刻コース入学者増等による教室按分の問題も派生し、年度末に、教室の再整備を図りましたが、次年度も継続案件となります。
- しかし、服飾専門課程の今後(生徒数減に伴う実質使用教室数減)と相まって、総合的に推移を見極める必要があり、俯瞰的なとらえ方が必須となります。

〈公開講座の方向性〉

附帯事業であり収益基本で、運営基準の整備と東急 BE の講座吸収により生徒数の増員が図られました。絵画中心のスタイルは変えず、他カルチャースクール等情報収集しながら、東急 BE 同様の形で拾えるものは拾い更に強化したいと思います。

[各種制度見直し]

- 努力義務ですが 70 歳を見据えた継続雇用が求められ、当法人としては週 3 日勤務等新しい働き方を導入することにより、運用基準を作り導入へと舵を切りました。
- 現行労働基準法上の一定の縛りはありますが、一昨年度 8 月発表の副業に関する国の指針から副業を想定した上での規定を整備しました。
- 本年 3 月 29 日「学校法人制度改革の具体的方策」が発表されました。これに沿った形で当法人も試案作成に舵を切りたいと考え議論を加速させていきます。

[収益構造含めた抜本的対策]

- コロナ下での生徒募集活動でしたが、文化専門課程入学者は継続増となりました。服飾専門課程専攻科募集停止と退学者増の結果、学納金収入は減となり収入的に打撃ですが、学校全体としては 5 年続けて入学者増の結果です。
- 課題であった「公開講座」の収益構造が東急 BE 講座移管も含め大幅改善し、令和 3 年度は実質プラスに転じました。
- 兼任教員及び公開講座講師単価を他大手学校法人が始めた交通費込みに変更。
- 資産運用は令和 2 年度 4 月施行の改正私学法により、資産の安全運用が基本とならざるを得ず運用益大幅減でしたが、元本の毀損はありません。
- 賃貸料収入は長期契約で変動無く安定推移しました。
- その他収益として、小さな積み上げですが、キッチンカー駐車料金、自販機増設、田中千代ギャラリー運用見直し等を今年度進めていきます。

[まとめとして]

時代は移ろいます。その流れは逆らえませんが気付くことで対策はあります。当学園が追い求めているものは「クリエーション」です。「物」「こと」の動きに気付き、作り出していく事に今後とも注力していきます。

田中千代先生著書「心やさしく生きる」に書かれた言葉を共有し、引き続き学園の春を見据えて努力を積み重ねます。

以上